

研修コーナー

Q&A

Q 1995年1月の「婦人科がんの疫学と予防」において、アルコール摂取や喫煙（偏食）は体癌のリスクを低下（1/2）させると記述がありました。現在、私は日本禁煙医師連盟に所属しており、禁煙推進運動を行っておりますが、喫煙が癌のリスクを低下させるということを聞いたのはこれが初めてです。この記述のもととなった文献を教えてください。ただければ当方にて十分検討したいと思しますのでよろしくお願い申し上げます。また、これが子宮体癌において一般的な見方なのかどうか教えてください。

（群馬：M.M）

A 動物性高脂肪、高蛋白の食生活が体癌リスクを増し、アルコール摂取や喫煙により栄養の偏食が起こり、その食生活が逆効果になっていると理解する必要があります。喫煙は全身各所において有害であり、当然禁煙は大切なことです。したがって、増加している体癌発生の予防に対し喫煙はなんらリスクを低下させないと結論できます。

参考文献：Britton LAX Hoover RN: Epidemiology of Gynecologic Cancers. Principles and Practice of Gynecologic Oncology. In: Hoskiss WJ et al., eds. JB Lippincott Comp. 1992; 3—26および論文中の文献12, 139, 140, 150, 209, 214, 220
（岐阜大学医学部産科婦人科教授 玉舎輝彦）

研修コーナー

book review

Primary care for the Obstetrician and Gynecologist
Yvonne S. Thornton

IGAKU-SHOIN MEDICAL PVB. INC. ￥9,500
（医学書院・洋書部調べ）

本書は産婦人科医のためのプライマリケアについて書かれたユニークな書である。いままでは他科と同じく産婦人科においても生殖・周産期・腫瘍といった各専門領域のスペシャリスト養成が重視されたが、時代の変遷と共に産婦人科は広く女性一般を扱う科という認識が広まりつつある。事実、本書の序文にも書かれているように、ギャラップ調査によると婦人の一般医学検査の実に72%は産婦人科医が行っている。このような状況から、われわれ産婦人科医が産婦人科以外の疾患を対象に女性を診る機会は今後増加していくと考えられる。本書は産婦人科医が他の科のスペシャリストとなることを目指して書かれたものではなく、あくまでも、プライマリケアに重点が置かれて書かれている。本書で取り上げられている疾患は循環器、呼吸器、消化器、神経疾患をはじめ、皮膚、甲状腺、血液疾患や高血圧、自己免疫疾患、糖尿病、ウイルス性肝炎、HIVと幅広く、われわれが通常遭遇する疾患のほとんどが網羅されている。これらは各科の専門家により平易に書かれ、疾患の概念、診断、治療が要領良くまとめられており、産婦人科医にも容易に各疾患に対する対処法が理解できるようになっている。また、救急蘇生法や心電図の解釈の仕方などの

項目も取り上げられ、それぞれ一章ずつが割り振られており、本書をより実践的なものと仕上げている。

女性が自分の健康を心配したとき、まず産婦人科を訪れる傾向はこれからも増加していくと思われる。これらの女性に満足な医療を提供するのはわれわれの義務であり、そのためには女性のプライマリケアに精通した頼りになる産婦人科医を目指さなければならない。

東京女子医科大学母子保健総合医療センター教授 岩下 光利

Principles And Practice of Gynecologic Oncology (2nd ed.)

W. J. Hoskins, C. A. Perez, R. C. Young

J. B. Lippincott Co. ￥29,800
(医学書院・洋書部調べ)

以前より個人的に本書を婦人科腫瘍学に関する最高の成書であると考えていたが、待望の第2版(1996年)が出版された。著名な3人の編者に加え、各領域の専門家108人の共著であり、各項目とも内容が充実している。辞書的に必要な部分のみを開いて要点を調べるのにも適しているが、少しずつ通読してもあきない。さらに豊富な文献は1995年のものまで含まれており、本文の内容の引用も含めて関連文献を手軽に知ることができるので、論文を作成する際の参考書としても適している。

内容は大きく三つのセクションにわかれており、I. Basic Science of Gynecologic Oncology II. Therapeutic Modalities and Related Subjects III. Disease Sites となっている。1178ページ、A4版で厚さ約5cm、3.5kgの本であり、いつも持ち運びというよりは机の上に常備したい一冊である。誌面の都合で内容を詳細には紹介できないが、たとえば上皮性卵巣癌の取り扱いの頃には、Paclitaxel/Cisplatin vs Cisplatin/Cyclophosphamideの比較試験(GOGプロトコル111)の結果も示されている。このあたりのデータは参考書として掲載できる最新知見であろう。余談になるが、5月に米国臨床腫瘍学会(デンバー)に出席し、書籍コーナーに立ちよったが、他の腫瘍学の代表的参考書と並んで、本書が床に山積みされており、飛ぶように売れていたのを覚えている。本書はGynecologic Oncologistならば一冊持っていて決して損はないと断言できる。

東京慈恵会医科大学産婦人科講師 木村 英三

EXERCISE 解答

66	(320) d	(321) a	(322) e	(323) b	(324) c
67	(325) e	(326) a,c	(327) c,e	(328) b,c,d,e	(329) c
68	(330) c	(331) b	(332) b	(333) d	(334) c
69	(335) b	(336) c	(337) e	(338) a	(339) c